

7. 光のマスタープラン

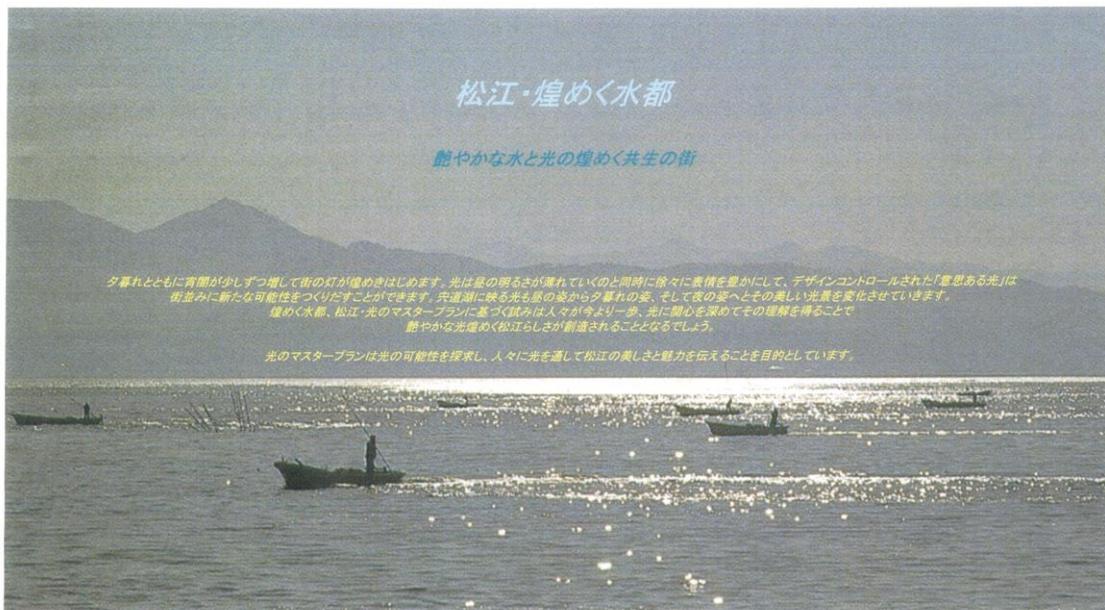


松江市 マスタープラン

A172-03-20 UCHIHARA
CREATIVE
LIGHTING
DESIGN
INC.

光のマスタープラン Concept

光のマスタープランのコンセプトは「光の魅力」「光のガイドライン」によって構成されます



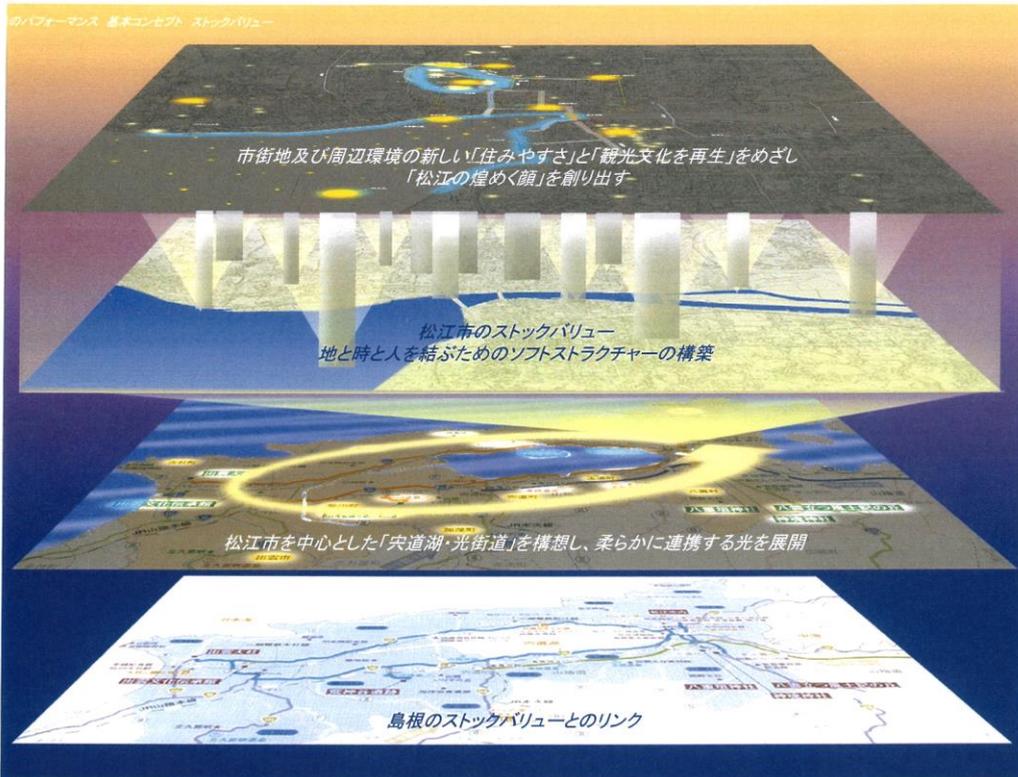
「光のマスタープラン」

UCHIYAMA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.



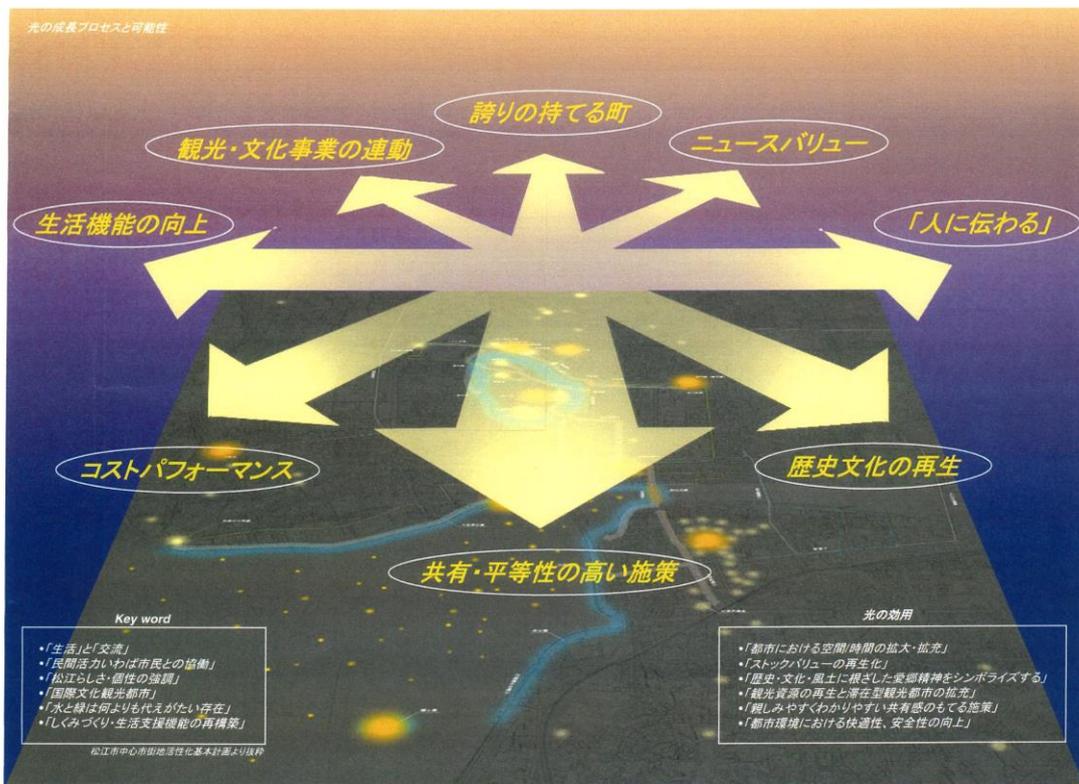
「光のマスタープラン」

UCHIYAMA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.



「光のマスタープラン」

UCHIBARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.



「光のマスタープラン」

UCHIBARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

「光の魅力」を探る：光のマスタープランの役割

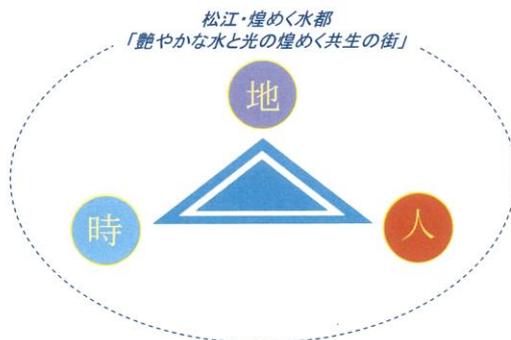
光の効用は様々な空間や時間と目的に柔軟かつ効果的に働き、人と人を繋ぐコミュニケーション機能をあわせ持った表現手段だと考えます。

光の可能性を探る上で、欠かすことのできない「地」と「時」と「人」が相互に関係しあい、各々が共生できることを目的とします。

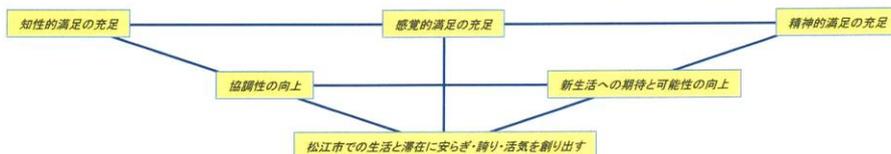
「地」は（松江独自の自然・都市環境と伝統的生活文化に根ざした場を引き出します）

「時」は（歴史的文化価値の継承から日常の生活習慣、人は時の変化と共に様々な情報価値を選択し未来を見出す力を時間の中に見出します）

「人」は（松江に住む協働の人々と内外の松江を愛する人との多様なコミュニケーション、人を中心とした「人を結ぶ」光の効用を探ります）

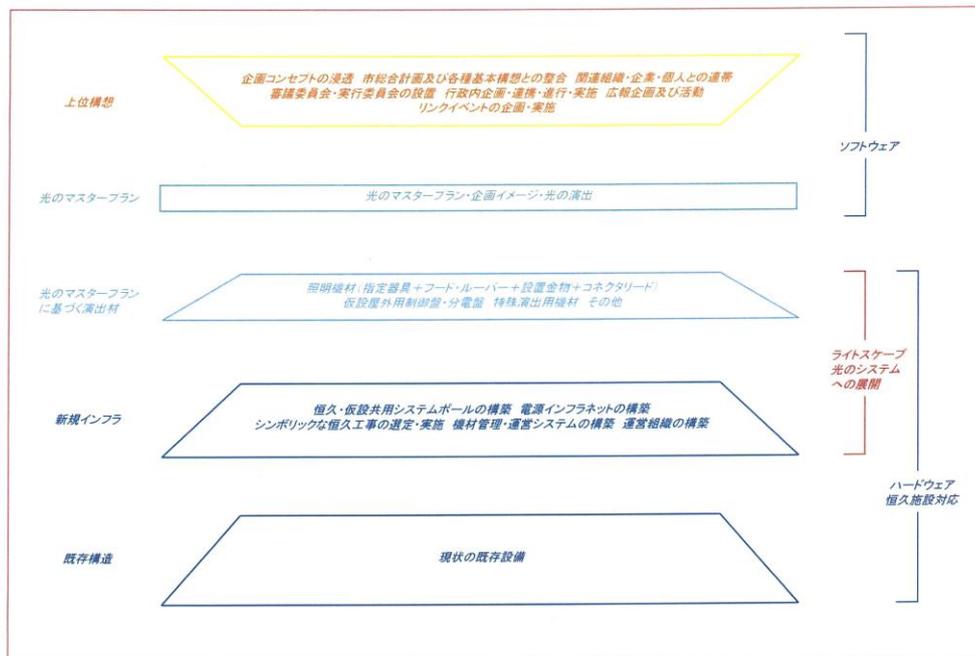


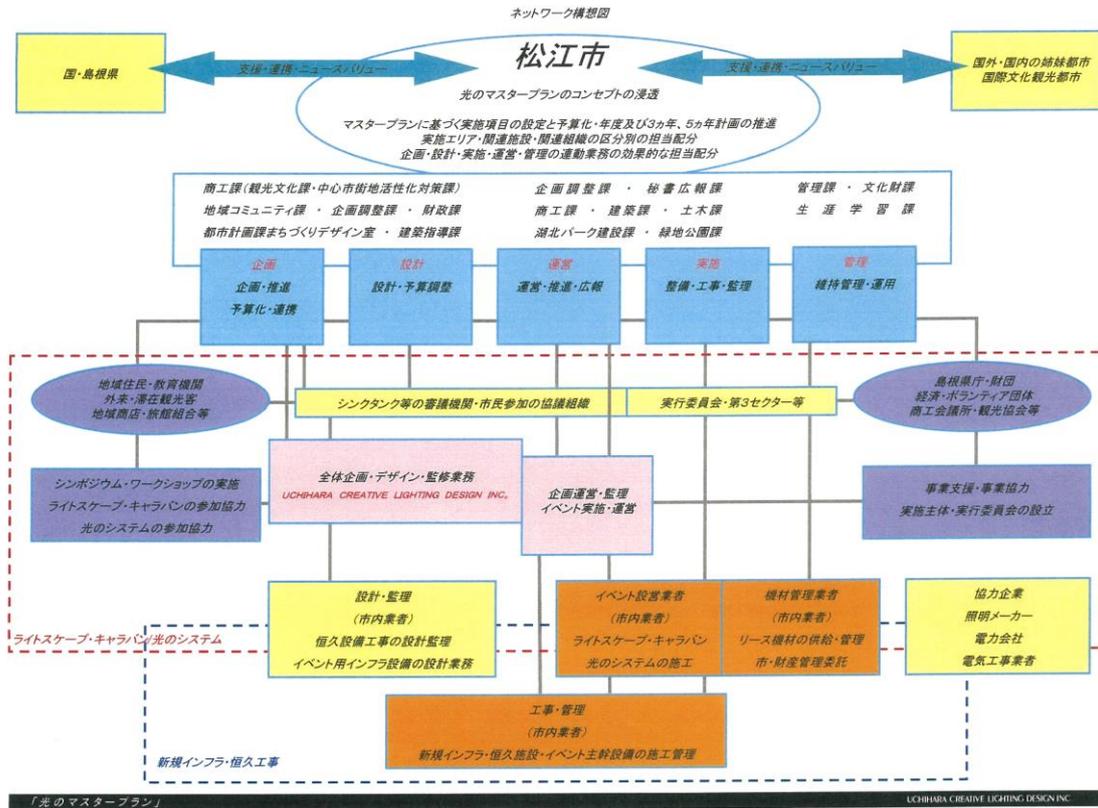
光のマスタープランは松江の資源を開らすだけでなく人々の行動様式を視野に入れて松江全体を活性化することが目的です



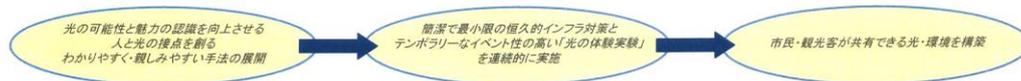
ライトスケープキャラバン 「光システム」の運動

一覧表（フローチャート）





光の成長プロセス：光ならではの軽快で効果的な成長するプロセスを展開



「地」のチャンネル：豊かな自然環境・美しい城下町の街並みを生かす「地」のチャンネルを検証。光ならではの魅力的で多様なプロセスを構築
 「時」のチャンネル：膨大な歴史的ストックバリューを再生し、現在の快適な都市空間に必要な「時」と未来につなげる夢のある時間と空間を構築
 「人」のチャンネル：生活する人・訪れる人が松江を愛し、親しみの持てる共有できる光環境を構築



ライトスケープ・キャラバンから恒久整備、イベント実施プロセス(例)

「地」「時」「人」のテーマ分析

「地」……松江独自の自然・都市環境と伝統的生活文化に根ざした場の力を引き出します。

- ☆自然(宍道湖、大橋川、枕木山、茶臼山、兼山、真山、空山、緑ヶ島)
→生態系に配慮、夜景などを見せる場所づくり
- ☆文化・歴史・風俗(松江城、松江郷土館、神社、武家屋敷、小泉八雲記念館、各神社・仏閣、風土記の丘、ホーランエンヤ、夢行列、不昧流)
→ブランドデザインにあわせて均整の取れたプランニング＆デザイン
- ☆居住・交流→道路、公園、各学校、各公共空間、各商店街、観光施設、温泉
→安全・安心できる整備、人々が集むくなるデザイン

「時」……歴史的文化価値の継承から日常の生活習慣、人は時の変化とともに様々な情報価値を選択し未来を見出す力を時間の中に見出します。

- ☆安土・徳山時代： 隠居吉晴が出雲・隠岐二十四万石を拝領する。
- ☆江戸時代： 龜田山に松江城(千鳥城)の築城をはじめ、今にも残る武家屋敷や橋その他歴史文化施設などのほとんどが江戸初期につくられた。また、松平七代城治卿が茶道革命を提唱し独自の茶道文化を極めた(後に割愛し不昧と号す)。明治維新までの松江城主は細尾家3代、京極家1代、松平家10代へと移り変わった。
- ☆明治時代： ラファディオ・ハーンが英語教師として招聘される(後に松江出身のセツさんと結婚)。「カラコロ」の名称は、下駄で橋を歩く音を八雲が表現したところからつけられた。鉄道の開通、興業閣、松江大橋(釣橋型)、松江新大橋やその他公共施設が次々と整備された。神魂神社本殿が国宝に指定される(最も古い大社達)
- ☆大正時代： 日本銀行松江支店開業(現カラコロ工務) 松江城天守閣が国宝に指定される。
- ☆神話→くにびき神話： 鳥根半島は神様が引き寄せてきて本州につけた。
→「古さがロマンに変わるプラン」「調われ、古い伝えを伝承したくなるプラン」「歴史・文化資源を大切にしたいくなるプラン」イコール光のマスタープラン

「人」……松江に住む郷土の人々と内外の松江を愛する人との多様なコミュニケーションを図るため「人を結ぶ」光の効用を探ります。

- ☆市民(子供、高齢者、身体障害者、その他)→安全・安心できる環境
- ☆周辺市町村民→松江に集える環境づくり
- ☆観光客→松江の観光資源をよりみ立たせる、夜の観光へと観光時間の拡大
- ☆ビジネス関係者→ライトアップにより交流人口増加に伴う様々な事業展開

「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

「地」「時」「人」を結ぶ光

～「地を結ぶ光」～

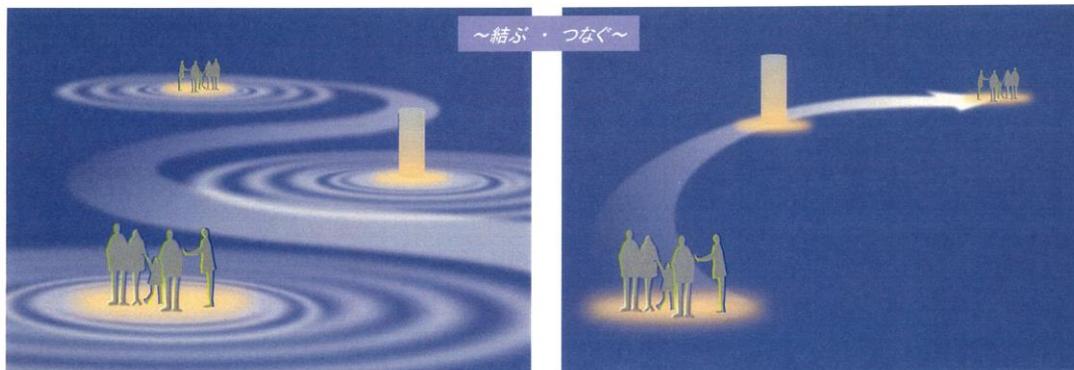
：夜の闇に包まれた空間にはシンボライズされた灯や人々を優しく迎える灯火が街を移動する人々の時間空間の中で連続的につながり結ばれます。光によって伝わる情緒豊かな表情が心と空間を押し広げ「地を結ぶ光」を構築します。

～「時を結ぶ光」～

：歴史的文化価値が夜間、光によってクローズアップされ、「誇り」に感じられる美しい景観と共に、様々な文化情報が光に伴って発信され人々に再認識されることとなります。歴史からくみ取らなくてはならない大切なメッセージと未来を託すメッセージを現在に再生する「時を結ぶ光」を構築します。

～「人を結ぶ光」～

：光は豊かな表情と強めく魅力を持った「人を結ぶ」コミュニケーションツール。その輝かで、刺激的な可能性に富んだ光の多様な表情を「松江の光」として展開します。人と環境(街並)が一体となった「人と地と時」が結び合う光を構築します。

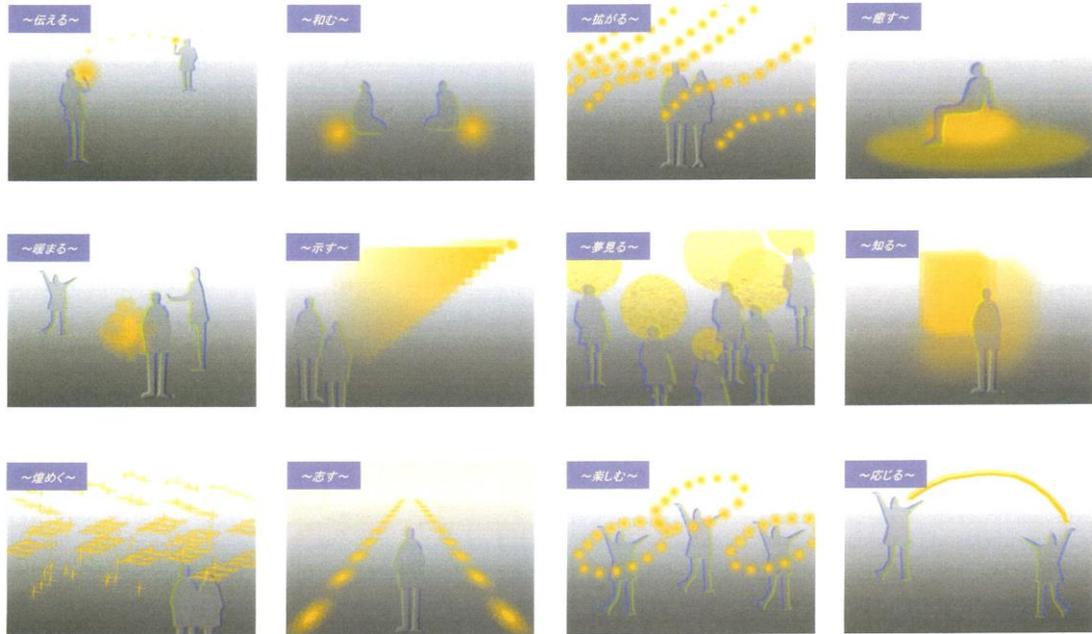


地と時と人を結ぶ光：空間と時間と人を柔らかく、柔軟に結びつけることが可能な光の魅力

「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

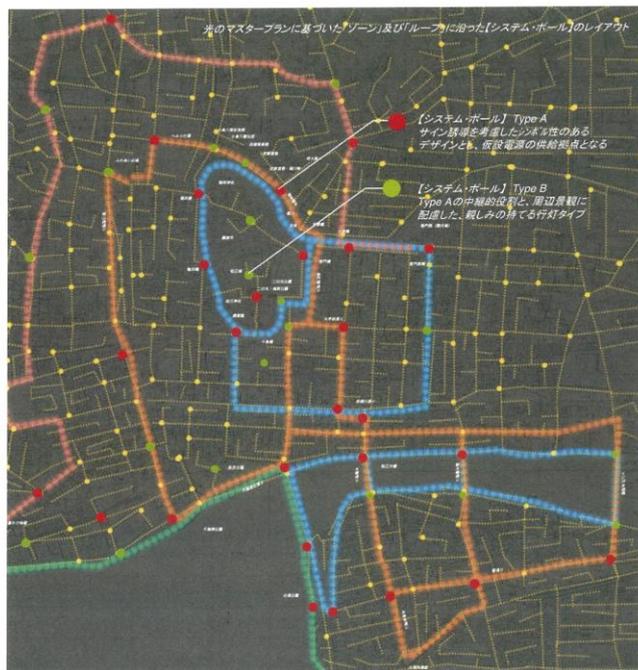
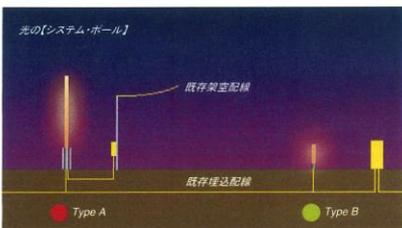
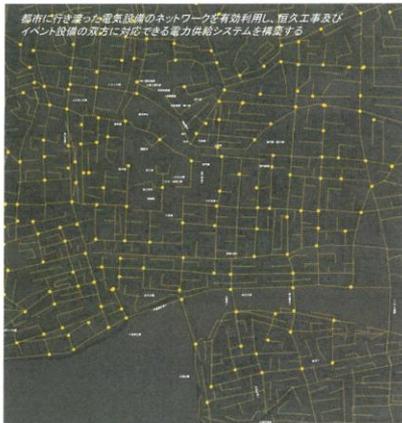
地と時と人を結ぶ光 ～「人を結ぶ光」～ : 光は豊かな表情と雄めく魅力を持った「人を結ぶ」コミュニケーションツール。その暖かで、刺激的な可能性に富んだ光の多様な表情を「松江の光」として展開します。人と環境(街道)が一体となった「人と地と時」が結び合う光を構築します。



「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

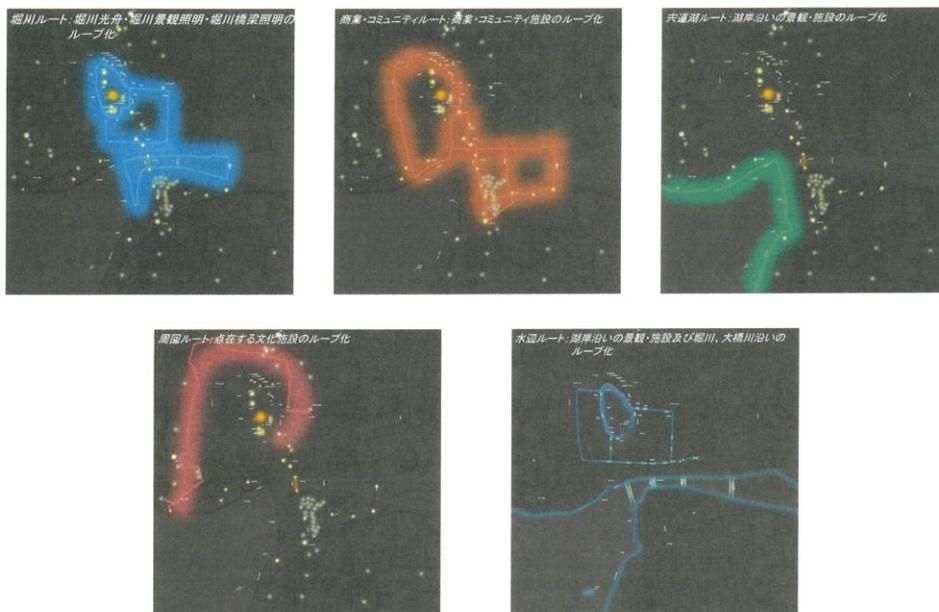
新規インフラ・恒久・仮設対応共用システムホール／電源インフラネット



「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

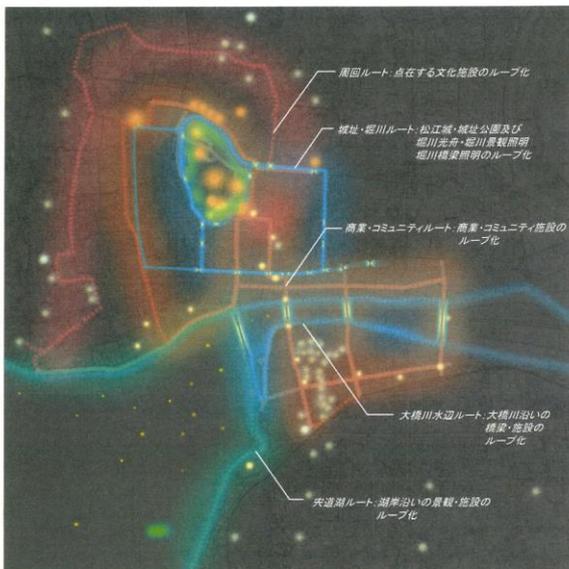
「結ぶ・光のストーリー」光イメージ図・2



「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

「結ぶ・光のストーリー」光イメージ図・1



1. 城址・堀川ルート・松江城、城址公園及び堀川光舟、堀川景観照明・堀川橋梁照明のループ化

 - 松江のシンボルゾーンとしての夜間景観の拡充と「顔」づくりの中心。夜間の快適で安全な歩行空間をつくりだし、文化情報が併設できる奥行きと広がりのある施策を目指す。
 - 事業担当イメージ 観光文化課・中心市街地活性化対策課→文化財課→土木課・建築課
2. 商業・コミュニティルート・商業・コミュニティ施設のループ化

 - 観光文化でつながる宿泊、飲食物販店舗、コミュニティ施設を骨・民協力のもと「結ぶ」光のループを構築。既存環境と各々の魅力を引き出し、仮設景観照明・仮設イベントなど時間軸の連続的なループ的施策が重要となる。
 - 事業担当イメージ 観光文化課・中心市街地活性化対策課→まちづくりデザイン室→土木課・建築課
3. 大橋川水辺ルート・大橋川沿いの橋梁・施設

 - 松江市の南北2分される都市構造の機能・景観の長所をいかし、美しい水辺のラインをたどるループの光を構築。街並みと水面の美しい対比をいかした、松江ならではの景観づくりとなる。
 - 事業担当イメージ 観光文化課・中心市街地活性化対策課→まちづくりデザイン室→土木課・建築課
4. 穴道湖ルート・湖岸沿いの景観・施設のループ化

 - 松江市独自の景観と都市全体の表情を創る上でもっとも重要なゾーン。夕日、水面の自然景観を生かし、市民と観光客に愛される景観を目指す。
 - 事業担当イメージ 観光文化課・中心市街地活性化対策課→文化財課・国土交通省→まちづくりデザイン室→土木課・建築課
5. 周囲ルート・点在する文化施設のループ化

 - 松江城址を中心とし、点在する文化施設を円形になぞるように「結ぶ」光のループ。仮設巡回型の景観照明の連続によって「常にどこかで訪ねる所がある」イメージを構築する。
 - 事業担当イメージ 観光文化課・中心市街地活性化対策課→文化財課・建築課

「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

松江・光の水都 光のガイドライン

- (1) 光のトータルディレクションと意識革命
- (2) 地域別照明指針
- (3) 自然景観の光のガイドライン
- (4) エネルギー問題の新しい展開と仕組み
- (5) 光の顔づくり ~街あかりの色~
- (6) 都市景観の環境演出照明のつくりかた

「光のマスタープラン」 UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

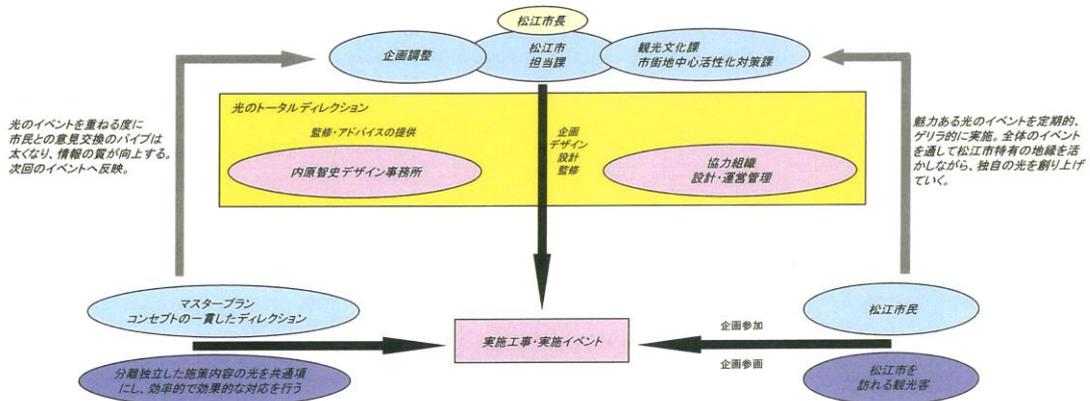
松江・光の水都 光のガイドライン

1) 光のトータルディレクションと意識革命

光のガイドラインを実行する仕組みづくり

光は空間に創意的印象を創り出し、かつ、生活機能としての安全や安心も機能しうる重要な都市要素であり、空間の境界に留まらず常に迎合し影響しあう性質が特徴の一つでもあります。光によるまちづくり、景観形成は個々の光のデザインだけでなく常にバランスと抑揚のコントロールに努め光の効果を最大限に引き出すことが大切となる。「光の魅力」を改めて認識すると共に、トータルな光のディレクション(企画・デザイン・監修)を長期的に手がけることが松江の光を美しく、印象的かつ情緒的にし、市の財産を生かし誇りの持てるクオリティを達成することとなる。

光のトータルディレクションは長期的視点に立ち、松江市が松江市民と連携しながら光に対する意識革命をもたらすことを視野に入れています。光のガイドラインはプランを実行に移す具体的な機構づくりを示すことで、マスタープランの実行を機敏に行い、個々の実施計画に対しても適切なアドバイスを行います。



「光のマスタープラン」 UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

松江・光の水都 光のガイドライン

2) 地域別照明指針

地域特性と光の有り方指針

私たちの誰もが美しいと感じる光が存在します。その美しい光が松江市内すべてを覆うことも可能かもしれませんが、しかしながら、松江市の地域による特色に沿って機能的な光を考えていくことは、松江市の商業・工業の発展にもつながる重要な要素でもあります。美しさは一定のベースとなる規格の上に若干の個性と変化がもたらされることで生まれます。良質な照明環境は、市民を安全と機能性の面からサポートするのみで、「松江・光の水都」の住民として誇りの持てる環境構成の一要素となります。

自然景観の照明

- ・自然の生態系に配慮した光環境の構築
- ・不要な配光を厳格に排除した、省エネ環境対応の光学設計
- ・光の密度、波長、点灯スケジュールのバランスが保たれた計画

住宅地域の照明

- ・人の顔が認識できる照度計画
- ・グレアレスの照明器具
- ・照度を確保しながらの小気味よいビッチによる配置

歴史的地区の照明

- ・歴史的情緒と歴史的文化情報を伴った光のデザイン
- ・光による空間スケールの表現
- ・照度を確保しながらの小気味よいビッチによる配置

商業地域の照明

- ・個性と活気溢れるデザインの照明器具
- ・夜間閉店店舗への誘導を行う照明制御・スケジュール
- ・外部露出商品を考慮した演色性の高い光源選択
- ・松江らしさを醸し出す照明

水景地区の照明

- ・自然の生態系に配慮した光環境の構築
- ・船舶交通の安全に配慮した光のデザイン
- ・水面での光の増幅効果を考慮した「松江らしさ」の創出
- ・水ならではの光の表情「揺らぎと煌めき」をデザイン

工業地域の照明

- ・エネルギー効率の高い光源の選択
- ・作業性の高い水平面・鉛直面照明
- ・均一性の高い良質な光環境

「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

松江・光の水都 光のガイドライン

3) 自然景観の光のガイドライン

～美しい自然景観の構築と共に「自然を大切に共に生きる」松江の取り組みが反映された光環境とする～

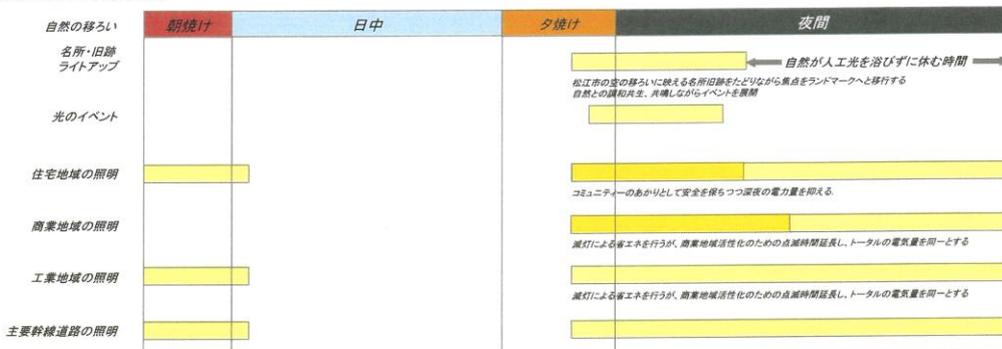
1. 生態系に配慮した光環境を

松江の特色である水系周辺の光は機能照明・環境演出照明が目的のスペース以外の不要な光を発生せず機能と効果を満たすための光学的設計とデザインが満たされることを条件とします。また、街路灯の水平方向以上の上空への拡散光を制御し、樹木、壁面照明の投光照明も適切な対象物への配光、光量を維持し天空への不要な光を極力少なくして夜空の星にも配慮したデザインを行う。植物の生態系にも配慮し人の密度や周辺の明るさを充分配慮して必要最小限の光の配光と量をデザインしつつ、点灯時間にも十分配慮した計画とします。

2. 自然との共生・時間のシェア

私たちは誰もが等しく自然の営みを享受することができます。これは人工的なものによって邪魔されることがあってはならないものです。光のガイドラインでは、自然が与える美しい光環境は松江市民の共通の財産として認識し、それを引き立てるような点灯スケジュールが必要と考えます。また、人々が体を休めるように、美しく光によってクローズアップされた自然もまた、一日の中において一定の時間休むことを考えます。それはすなわち、時間のシェアによる自然の共生の光となります。

自然との共生・時間のシェア



「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

松江・光の水都 光のガイドライン

4) エネルギー問題の新しい展開と仕組み

エネルギーの有効利用

光のマスタープランでは「地・時・人」をくまなく有効な施策として「街あかり」を通した光の魅力をも市民・潜在観光客の一人でも多くの人々が感じることを目的としています。また光を創り出すことはエネルギーを必要とします。その利用方法が創造性・文化性・機能性を併せ持つ優れた光のデザインによってエネルギーの有効活用を全ての人が意識して進めなければならないことです。松江・八東合併にあたり、原子力発電所を有する都市としてエネルギーを上手に活用していることをアピールすることは、全体を見渡したバランスの取れた行政であると考えます。

光のマスタープランでは経済的な側面だけの省エネルギーではなく、松江の持つ潜在的な価値を引き出し、教育的な効果や継承・伝承すべき価値を改めて見直し、具体的効果によって「あらたな観光資源」「あらたな市民のコミュニティー」「あらたな生活機能」を創り出すエネルギーの多角的な有効利用を検証します。

1. 電気エネルギーの有効利用：「街あかり」の光を通して「電気と光を有効に利用する都市」
日本最初の県庁所在地に原子力発電所を有する都市として「街あかり」の光を通して、市民全員が有意義に環境・情報・文化を享受できる均衡の取れた平等性の高い施策として「電気と光を有効に利用する都市」としてアピールできる特色を打ちだしていきます。
2. 自然環境を活かし先端技術を利用した自然エネルギーの有効利用を先駆けます：光・エネルギーと自然と共生する姿
太陽電池・風力発電を代表する自然エネルギーを有効利用し、テーマ性の高い「光のシステム」を構築し、「自然との共生」をテーマに話題性の高い計画的な開発と特色を「松江のイメージ」づくりに貢献する施策を目標とします。
3. 道村通所・高効率・高品質を心がけ、省エネルギーを踏まえた都市全体の光環境を構築します：光の企画・デザインの浸透
都市機能からパーソナルな人のための光まで、空間規模や人の密度、光の強弱にともなう抑揚のある演出など、効率と効果を重視した省エネルギーに配慮した光の企画、デザインを浸透させます。

松江・光の水都 光のガイドライン

5) 「松江の顔」づくり ～街あかりの色～

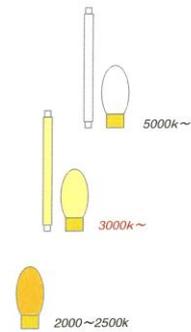
夜の表情をどう創るか

夜間の航空写真を見たり、飛行機で都市の上空を通過すると、その都市特有の光の色が見えてきます。高度経済成長期に白色で染まった日本の都市は個性を欠いているようにも見えます。これは、効率のよいと言われていた水銀灯が街路に一律に配され、また均一に建物内を照らしている蛍光灯が都市の輪郭を浮かび上がらせているためです。また、オレンジ色に輝くヨーロッパに見られる都市ではナトリウム灯が都市の輪郭を形成しています。

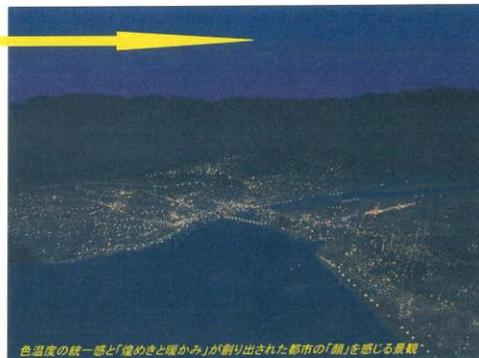
松江市では、このどちらにも属さない新しい都市の表情を創り上げていきます。現在光源の開発は進み、異なる光源での色温度の選択も比較的自由になってきました。いわば、画家が絵の具と筆を使って絵を描いていくように、色を選択して夜のキャンバスに光の筆で絵を描くことが可能なのです。私達は美しい夜景づくりとして、まずこの色温度を暖かな表情を持ち、演色性(色再生性)の高い光源を松江のベース的な光として構築し、「街の様々な素材」や「人の表情」が埋めこみ、品格のある景観を目指します。

松江市「街あかり」の光源：長寿命・高効率で演色性の高い光源—白熱灯・ハロゲンランプ・セラミックメタルハライドランプ・蛍光灯(電球色)

3000Kという色温度で統一された都市は、現状としてはまだ存在しません。光源の寿命やエネルギー的に見ても可能となった今、情緒ある街並みづくりとホスピタリティーある表情を創り上げ、「松江の顔」づくりを定着させることは最も重要な施策課題だと判断いたします。



統一感のない無秩序な光源が混在し、「暖めきと暖かみ」が感じられない景観



色温度の統一感と「暖めきと暖かみ」が創り出された都市の「顔」を感じる景観

松江・光の水都 光のガイドライン

6) 都市景観の環境演出照明のつくり方

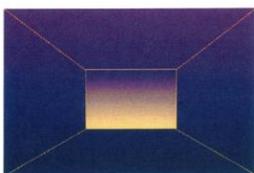
視覚心理を尊重した快適空間の形成

1. 視覚照度の確保 ～鉛直面照度の確保～
2. スケール感の伴う光環境
3. 視点場を想定した都市景観 ～近景・中景・遠景～
4. 視覚的連続性を配慮した都市景観照明
5. 光の相対性を重視した計画(絶対値より相対値としての個々の環境を重視した個別の企画・デザインの推進)

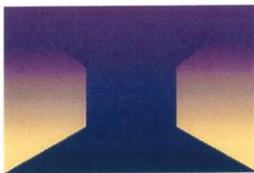
1. 視覚照度の確保 ～鉛直面照度の確保～



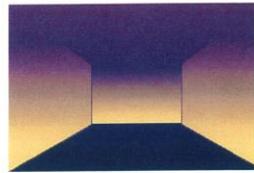
通常の街路などの屋外照明の光環境
●床面照度の確保が中心となり周囲環境は暗闇が大部分



進行方向対面の鉛直面照度を確保
●周囲環境の暗闇に変わりはないが誘導性や安心感が生まれる



進行方向側面の鉛直面照度を確保
●視覚照度が高く目に見える範囲で明るい領域が広い光に包まれた印象があり、快適性が生まれる



鉛直面照度を確保
●明るさが高く、安心・快適な空間となるが、適度な明るさの期待も必要となり、光が過剰でないことが重要

一般の街路照明は路面の水平照度(左上图)の確保が中心となり、空間の視覚照度(明るい感覚)は補われていないのが現実です。都市の夜間景観を構成する上で、この視覚照度を確保しながら景観を美しく向上し、安全で快適な空間づくりに努めます。ランドマークとなる建築や自然景観は鉛直面照度の確保に留意し、光が過剰にならない適切なライティングデザインの計画に基づきバランスのよい光環境を創ることが重要となります。観光文化資源を都市情報としても光でクローズアップしたり、散策の誘導性、快適性を高める上で鉛直面照度を有効に取り入れた計画とすべきです。

「光のマスタープラン」 UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

2. スケール感の伴う光環境



光のマスタープランは「地」と「時」と「人」をコンセプトに「松江らしい・街あかり」を構築することが目的です。人に焦点を当ててみると光の役割は手に触れる最も身近で小さな存在から、住まいを中心とした家族や近隣の人々との情報交換や安全性に配慮した光。そして都市景観の中で建造物や自然景観を取り込む広域な環境演出と、常に人と目的にあわせてスケール感を伴う計画に留意することが重要です。人の生活や感じる情感を無視した車のためのだけの車道照明や建築の大きさだけに追随した照明では人のためのやさしく快適な光環境はつくれないと考えます。

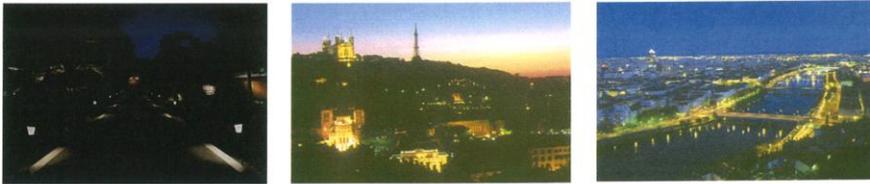
3. 視点場を想定した都市景観 ～近景・中景・遠景～



人に焦点を当てた光を考慮し、都市景観をヒューマンスケールから都市全体の領域まで人の視点場を想定した上で光のデザインを構成していきます。人の視点から見て最も近い近景から中景、遠景と都市構造の特徴や自然景観を十分に生かしながら魅力的な夜間景観づくりを進めます。時間経過に伴い一人の人が様々な表情の松江の光に触れることができるように計画することが重要な目的となります。

「光のマスタープラン」 UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

4. 視覚的連続性を配慮した都市景観照明



光のマスタープランのもうひとつのコンセプトは「結ぶ」。光は一つの照明器具から出る機能やデザインに配慮するだけでなく空間的に連続性を持ってレイアウトすることが重要となります。足下の身近な器具が遠く以上に連続する光景から土地の起伏を利用した立体的な連続感や河川などの線形に連続する光景は都市の特徴を浮かび上げ、人の印象に快適なリズム感と安心を生み出し、劇的で誇り高い都市の象徴性と高い文化性を創り出す要点ともいえます。連続する光の景観がその都市の文化的品格を創り出すようなクオリティの高いライティングデザインによって配慮されなくてはなりません。

5. 光の相対性を重視した計画(絶対値より相対値として個々の環境を重視した個別の企画・デザインの推進)



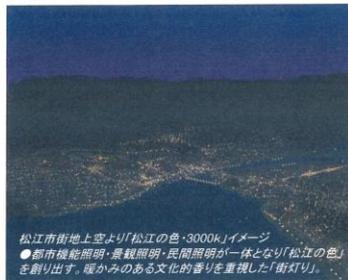
空間に劇的印象と深い情緒感を創り出すには、決して明るすぎず均質でない抑揚のある光が効果的となります。自然景観に対しても必要以上の光の量や広がりや極力排除し、建築などの投光照明もその建築の形態や役割を考慮してより象徴的な光の明るさに順位をつけるべきであると考えます。フラットな広場も均質な光ではなくそこを訪れる人に光の緩急を感じられるような抑揚が人の各々のシチュエーションにより柔軟に対応しうる光のデザインであり、優れた環境演出であると考えます。

「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.



松江市街地上空より現状イメージ
● 様々な光源が混在し、ライトスケープとしての都市景観・水迎の景観・シンボルの演出が成立していない。



松江市街地上空より「松江の色・3000k」イメージ
● 都市機能照明・景観照明・民間照明が一体となり「松江の色」を創り出す。暖かみのある文化的香りを重視した「街灯り」。



光のマスタープランに基づいた「燈めく水都」の完成イメージ

松江市街地上空よりマスタープラン完成予想イメージ
● 「地・時・人」の光、「結ぶ光」が連続しバランスの取れた「燈めく水都」を具現化した都市景観

「光のマスタープラン」

UCHIHARA CREATIVE LIGHTING DESIGN INC.

史跡松江城保存活用計画

発行日 平成29年3月

編集・発行 松江市
〒690-8540
島根県松江市末次町86番地

編集協力 (株)文化財保存計画協会
〒101-0003
東京都千代田区一ツ橋2-5-5